

複式算数 授業づくり講座

in 安芸市立穴内小学校

授業をアップデート!
生きて働く学びを創る!

令和5年12月発行
東部教育事務所



東部管内の
講座情報



本事業では、学習指導要領が目指す授業づくりを推し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指します。複式算数では、数学的活動を通して、資質・能力を育成する単元づくり及び授業実践、また、複式の特性を生かしながら資質・能力の育成へ向かう授業実践を提案します。

安芸市立穴内小学校で行われた授業研究会（10月31日）での学びの様子をお知らせします。



提案内容 第3学年「三角形と角」 第4学年「面積のはかり方と表し方」

本時の目標

【第3学年】

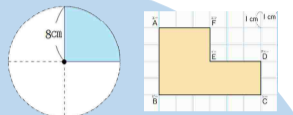
円の性質に着目し、二等辺三角形や正三角形の作図の仕方について考え、説明することができる。

【第4学年】

L字型の図形を構成する長方形に着目し、面積の求め方を考え説明することができる。

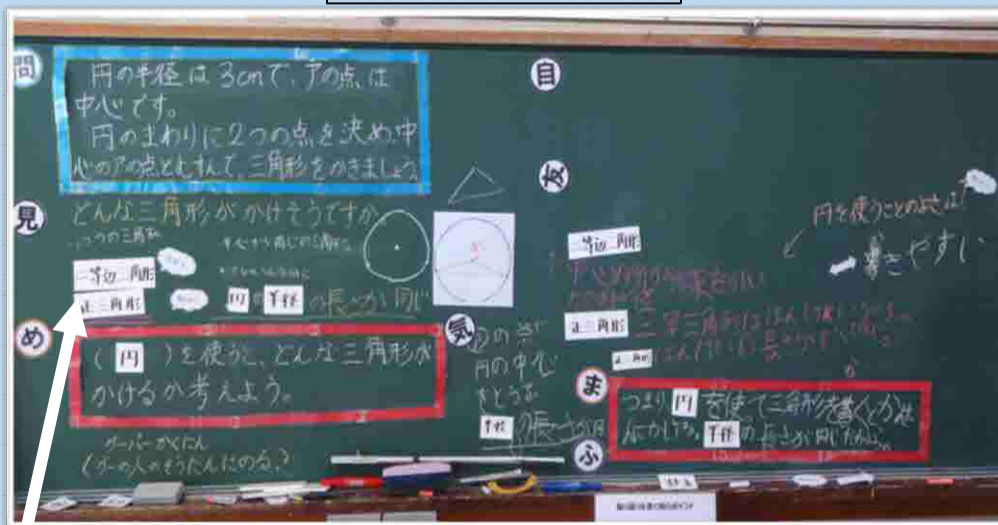
児童の主体的な学びを大切にしたいと思い、間接指導中心の授業構成にしました。もし、児童から学習で押さえたいポイントが出てこないときや困っているときには、直接指導ができるように準備をしました。

また、「見通し」では直接指導を行い、既習事項を確認することで、「一人学び」で思考ができるようにしました。



授業者
谷崎 蒼太 教諭

第3学年「三角形と角」



「見通し」での直接指導 *当日のTC
T: どんな三角形がかけそうかな?
C: ふつうの三角形。
C: 中心から同じ長さの三角形。
C: 二等辺三角形やない?
C: 正三角形もかけるかもしれない。
T: どうして、かけるんだろうね?

*キーワードの提示

二等辺三角形 正三角形

半径



第4学年「面積のはかり方と表し方」



「見通し」での直接指導 *T (教師)、C (児童)、R (学習リーダー)
T: どうすればL字型の面積を求められる?
(先生がいなくてもこの言葉をヒントに「見通し」を話し合っています。)
C: 縦に切って分けたら、長方形が3つできる。
C: ここを切って、この上にもってきたら大きな長方形ができるよ。
T: その考え、いいね。動かすんだね。
R: では、今からひとり学びをしましょう。

*キーワードの提示

長方形

分ける

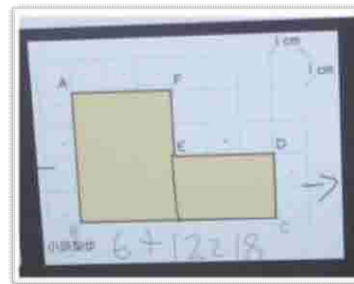
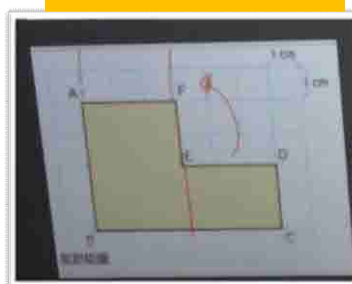
動かす



※ここがポイント

「一人学び」で考えたことをタブレットを活用して「とも学び」で伝える場面では、間接指導をしながら、ねらいに迫る学びになっているのか、深める話し合いができていのかをしっかりと見取ります。

ICTの活用



参加者のリフレクション

一人学び(自力解決)やとも学びで児童の思考を深めるためにも見通しが大切で、ここをしっかり押さえておくことで指導や評価がしやすいと思いました。また、算数用語を使うなど、効果的な掲示や教師の入りどころも大事だと思いました。

単式・複式関係なく、児童に身に付けさせたい力は同じであり、どのように思考させていくかなどをもっと研究し、児童同士が深め合う複式学級を目指したいと感じました。

両学年ともほとんどの児童が図形を構成する要素に着目して説明ができていました。そこに至るまでの見通しの段階での教師の働きかけがよかったと思います。また、とも学びの場面で全員が考えをもち、学習を深めていたこともよかったです。



★授業づくり講座からの学びを生かして各校で取り組んでほしいこと

- 解決の糸口や視点をつかませるような「見通し」の設定をする。(児童が「これなら自分でできそう!」と思えるようにする。)
- 「とも学び」で児童の考えが広がったり深まったりするような場面を設定する。

